

C-ENGINEは 産と学の交流をとおして イノベーションを創出できる人材育成をめざす大学と企業のコンソーシアムです

C-ENGINEの研究インターンシップは、修士課程・博士課程・ポスドクなど若手研究者が産官学を問わず将来イノベーティブな人材として活躍することを目的とした教育プログラムです。就職のためのインターンシップとは異なり、これまで培った研究力を活かして産業界の研究開発実務に関わることで、俯瞰力、チームワーク力、マネジメント力などを学び、研究者としての幅を広げます。また、産業界の人脈を広げるチャンスもあります。

C-ENGINEのインターフシップ3つの特徴

C-ENGINEは、研究インターンシップを普及・推進、イノベーション人材を育成することを目的として、日本の有力大学とグローバル企業により設立されました。(※)
大学と企業が組織として参画することで、他のインターンシップにはない3つの特徴があります

1 大学 × 企業

日本を牽引する大学と企業が組織として参画することで質の高いインターンシップを提供

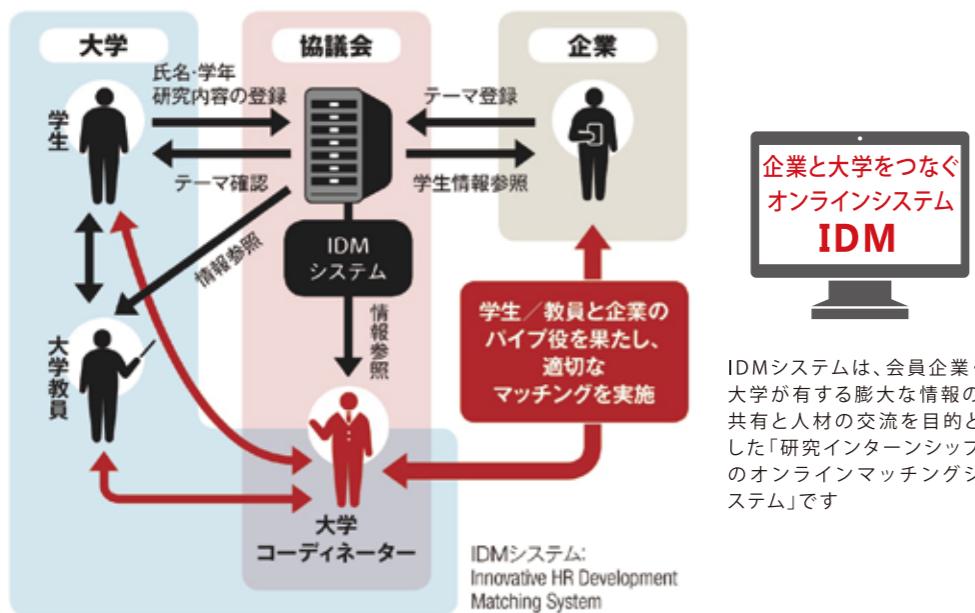
2 中長期のインターフシップ

腰を落ちさせて企業の研究現場を体験することが可能となる
中長期のインターンシップを数多く提案

3 柔軟なサポート体制

オンラインシステムの活用と経験豊富な大学コーディネーターによる柔軟で適切なサポート

C-ENGINEのインターンシップのマッチングは、オンラインでのマッチングに並行して、大学所属のコーディネーターが学生・大学教員と企業のパイプ役を果たし、適切なマッチングをおこないます。インターンシップの内容や時期を調整し、学生・企業にとって有意義なインターンシップとなるよう、個別のケースの条件や特性を考慮していながらマッチングに努めます



まずはIDMのアカウント登録からはじめよう!!

IDMにユーザー登録してできること

- 会員企業が限定公開している
インターンシップ募集テーマをチェック
- 企業へのアピール
- 企業に対して研究テーマの提案

IDMのアカウント登録は[こちらから](https://idm.invhhr.org/regis/)



登録された個人情報は、本活動にのみ活用され、他の機関が利用することはできません

(※) C-ENGINEは、経済産業省のご支援のもと、大学と企業が発起人となり、平成26年（2014年）1月に設立しました

インターフシップ開始までの一般的な流れ



企業理解を深めるためのイベント開催

C-ENGINEでは、学生の皆さんに企業理解を深めていただくことを目的として「マッチング交流会」「企業研究所見学会」「土曜セミナー」などを開催しています。企業での研究インターンシップに関心のある皆さまの参加をお待ちしています。

● 「マッチング交流会」

インターンシップに関心を持つ学生と企業の交流の場、企業の概要のほかに具体的な研究内容、本音などを聞くことができます。
例年は、各大学にて開催されます。昨年度は、コロナ禍影響のため、オンライン開催を実施いたしました。本年度も、春季・秋季と開催を予定しています。



2019.5.22 筑波大学 交流会



2019.4.26 大阪府立大学 交流会



2019.5.9 大阪大学 交流会



2019.5.20 東京工業大学 交流会

● 「企業研究所見学会」

企業研究所を訪問し、現場の雰囲気を肌で感じることで、より企業理解を深める場となります



2019.11.22 ダイキン工業見学会

● 「土曜セミナー」

研究者として社会で活躍するために身につけることが望ましいトランスファラブルスキルRISEの理解と企業研究開発におけるイノベーションの理解を目的として開催しています



2019.12.7 土曜セミナー

インターフシップで経験できること

短期のインターンシップではできない以下の経験が可能です。

最前線の企業研究に参画できる

- アカデミアでの研究と企業での研究の違いを知る
- 社会に貢献する研究には何が必要かを知る
- 企業での経験、知見を自らの研究活動に活かす

異なる環境に身をおくことで自分の適性や能力を知る



- 企業研究者として通用するかを見極める
- 企業での研究を経験し、研究者としての自信をつける
- アカデミア or 企業、将来の進路の判断材料とする

チームの一員として研究する力を身につける



- 異分野の研究者との協働を通して、表現や連携する力を磨く
- コミュニケーションや信頼関係の築き方を学ぶ
- 将来の人的なネットワークを構築できる

インターフシップを経験した学生の声

(2020年度の学生報告書より抜粋)

● 大阪大学大学院 工学研究科 M1 × コニカミノルタ 2020年9月28日～11月27日

インターンシップを経て企業の研究職として働きたいという思いが確実になりました。企業では様々な立場の人に研究内容を説明することが多く、よりわかりやすく説明する能力が求められること、スマートに研究を進めるためには周りの人との協力が不可欠であること、多様な人材がおられることで新しい視点や解決策が生まれることを体感することができました。これから研究インターンシップを検討している人へのメッセージとしては、あまり深く考えずに参加してみてほしいです。大学とは全く違う環境を体験することは本当に有意義で楽しく、将来の自分の姿を考える上で必ず役に立つと思います。

● 奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科 M1 × 堀場製作所 2020年11月1日～12月4日

内イベントで、HORIBAグループに就職された研究室の先輩が生き生きと語られているのを見て、興味を持ちました。インターンシップでは、製品開発の場で再現性評価実験を行いました。実験結果の理由を考え、評価改善に繋げ、計画実行に移して行くことを繰り返し、「なぜ」という視点を持つことができるようになりました。現場に入ることで自分自身の未熟な点、誇れる点がはっきり見えました。参加しなければ分からなかつたことも沢山あります。例を挙げると、報連相です。ただ報連相するだけでは意味がないことが分かり、どのように伝えると良いかを考えることができます。C-ENGINE のインターンシップは目標とそれに対する意識が非常に重要だと思います。働く自分を想像することができ、何を大切にしたいかがリアルにみることができました。

● 東北大学大学院 理学研究科 D2 × 日本ゼオフ 2020年8月6日～9月18日

卒業後の進路決定のため、大学と企業研究所における研究の違いや必要なスキルを学ぶためにインターンシップの参加を決めました。初めての完全オンラインによるインターンシップだったため、受け入れ部署の方も自分も手探りの部分が多くありました。今回は主に計算機を用いた研究だった事もあり、業務上の支障はほぼありませんでした。オンラインでの実施はまめなホウレンソウが大切だと感じました。インターンシップを経て、自分の専門と多少違っていても、論理的、合理的な思考能力が重要であるという点は変わらず、普段の研究生活で鍛えた力が役に立つと実感できました。計算結果について実験を担当されている方とディスカッションをし、PDCAサイクルを回したこと、研究推進におけるチームワークをより意識するようになりました。

● 筑波大学大学院 グローバル研究院 D2 × リコー 2020年8月6日～9月30日

2か月間のインターンシップを通して、企業での研究活動がどのようなものであるかを十分に学ぶことができました。これまでに使ったことのないシステムや技術が要求されることもありましたが、大学での講義や研究活動を通して培ってきた知識や技術を応用することで、対応することができました。また、自身の専門分野（コンピュータビジョン、画像処理）を活用する場面もあり、これまでの知識や技術が役に立つことを実感できました。インターンシップでの成果としては、社会的要件を考慮した研究背景や、周辺技術のサービスに基づいて、提案システムのプロトタイプを実装し、実証実験まで行うことができ、さらにはこれらを論文としてまとめて、学会に論文を投稿することができました。

● 京都大学大学院 工学研究科 D2 × 電力中央研究所 2020年10月1日～12月4日

大学では実施できないレベルの実践的な試験ができただけでなく、電力業界がどのような研究を望み、それに対して研究所がどのように研究を進めているのかについて、研究テーマの立案や研究計画等の観点から学ぶことができました。また、現場のニーズと研究者が思うニーズとのズレの本質的な原因も、大枠で把握できることができ、非常に有意義なインターンシップとなりました。

(Ver01:20210303)